

6340 渋谷工業 アウトパフォーマンス

無菌充填技術生かし再生医療向けも実績多く最高益更新続く

株価 2727 円 (4/14) 時価総額 768 億円 (4/14) 発行済株 28,149 千株 (4/14)

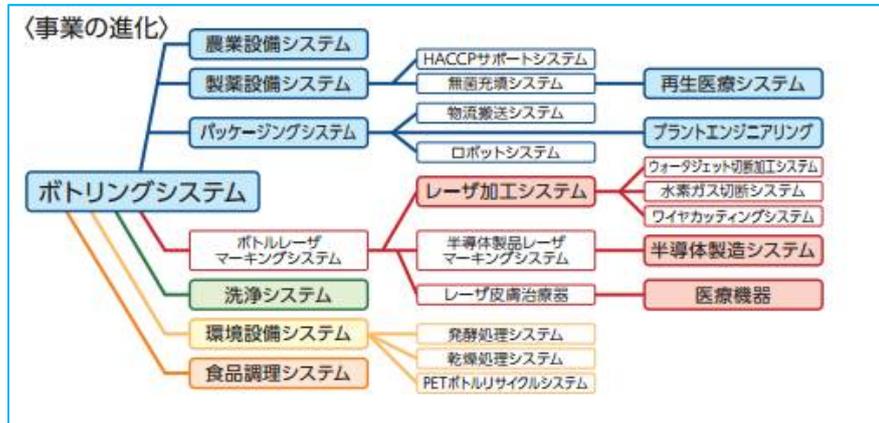
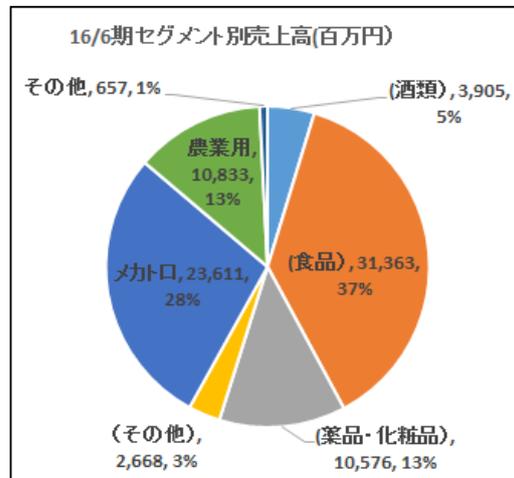
PER (17/6ARJ : 15.0X) PBR (1.60X) 配当 30.0 円 配当利回り : 1.09%

要約

- ・無菌充填システムを中心にボトリングシステム国内シェア 6 割を誇るトップ企業
- ・17/6 期 2Q 累計業績は 15.3%増収、87.1%営業増益と好調に推移
- ・17/6 期会社予想は 5.2%増収、4.0%営業増益予想と上期好調でも変更なく増額期待
- ・ボトリングシステムでは無菌充填に大きな技術優位性を持ち、今後海外展開が本格化
- ・製薬設備技術のすそ野広がる
- ・総合的な技術力が生きる再生医療事業の本格拡大に期待高まる
- ・農業用設備は 6 次化農業に向け国の支援などもあり合理化・高付加価値化で成長続く
- ・18/6 期もボトリング、農業用設備の好調に加えメカトロシステムも伸長し最高益更新続く
- ・株価は増額修正、再生医療関連の主力銘柄として機械セクター平均 PER19.3 倍の 3505 円

無菌充填システムを中心にボトリングシステム国内シェア 6 割を誇るトップ企業

同社は 1931 年、地元酒造メーカーなどに醸造用品を販売する澁谷商店として創業、戦後になり醸造メーカー向け瓶洗浄機、瓶詰機を生産、1953 年には高効率の二連式壘洗機を開発し、ヒット製品となる。その後 1959 年には清酒用の各工程をシステム化した自動充填機システムを開発、以来、ボトリングメーカーとして着実な成長を遂げてきた。同社の特徴は多品種少量生産対応に優れた点で、1983 年ころには三菱重工を抜き、トップシェアを獲得するまでになる。ユーザーであるボトリング業界が PET 飲料化を進める中で、同社は常温無菌充填技術を推進、最近では電子線でペットボトルなど容器の内



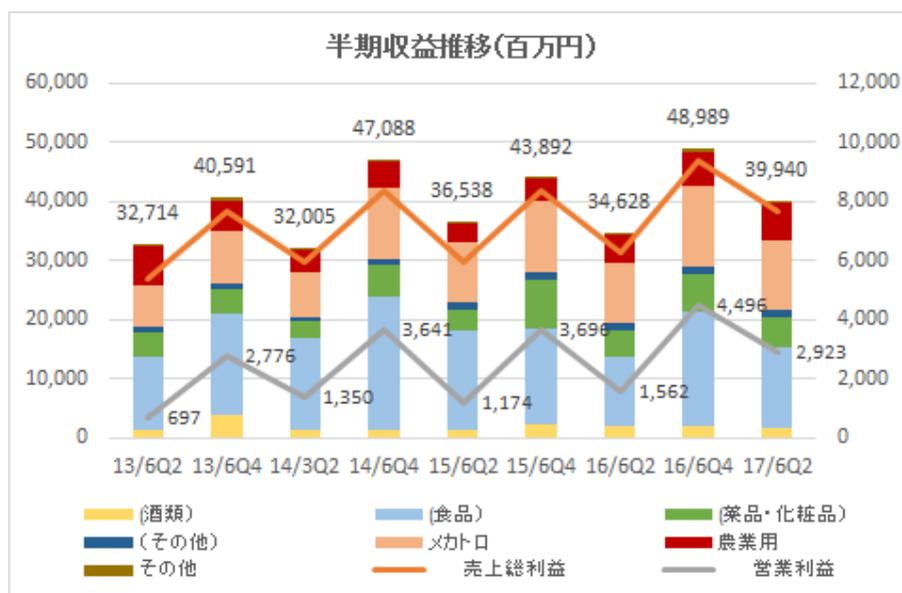
外を滅菌してから充填する次世代無菌充填システムに力を注ぎ、業界での地位をさらに高め、現在ボトリングシステムでの国内シェアは60%となっている。

また同社はボトリングシステムで必要となる関連技術として、レーザーシステムや包装機械、医療機械、半導体後工程製造装置、選果・選別機械などを提携やM&Aにより獲得、16/6期では、主力パッケージシステム(酒類、食品、薬品・医薬、再生医療その他)が58.0%、メカトロニクス(レーザ加工機、人工透析などの医療機器、半導体製造装置等)28.2%、農業用設備(選果・選別機、品質検査システム等)13.0%、その他事業0.8%という構成となっている。

### 17/6期 2Q 累計業績は15.3%増収、87.1%営業増益と好調に推移

17/6期 2Q 累計業績は売上高399.40億円(15.3%増)、営業利益29.23億円(87.1%増)、経常利益32.98億円(2.07倍)、税引利益22.52億円(2.15倍)となった。部門別売上面では、主力のパッケージングプラントが飲料用無菌充填ラインの納入が増加し食品向けが14%増の137億円、薬品・化粧品用プラントなども14%増加し50億円となり、部門売上高が11.1%増の217.08億円、営業利益も22.1%増の26.75億円と好調に推移した。またメ

カトロシステムも医療機器が欧州、東南アジア向けに伸び、半導体製造装置も中国向けなどの回復もあり、売上高が16.1%増の111.65億円、営業利益は操業度アップもあり7.4倍の4.57



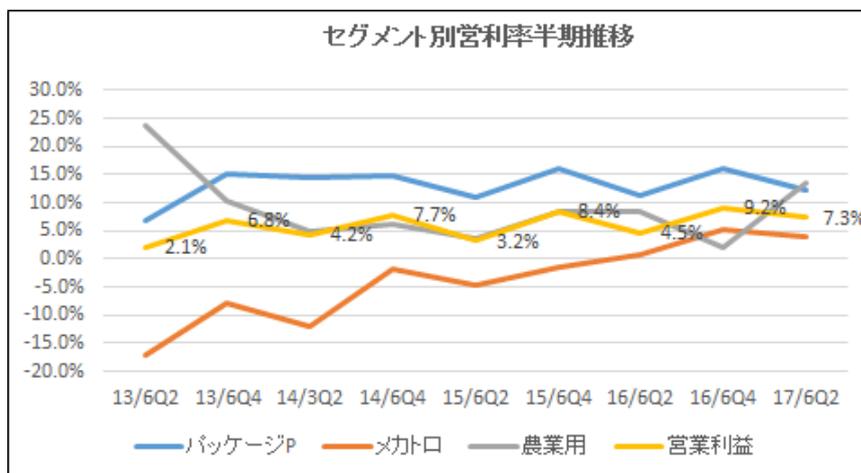
億円の。農業用設備については柑橘類選果選別プラントの伸長などから売上高は29.9%増の64.75億円、営業利益は2.07倍の8.67億円と倍増した。全体を通じて上期過去最高益更新となっている。

受注での2Q累計は27.1%増の499.40億円、パッケージプラントが13.8%増の286.09億円、メカトロシステムが52.8%増の127.39億円、農業用設備事業も45.9%増の82.60億円など全般に好調した。なお、上期の業績を受けて中間期15円、期末配当15円と5円増配し、年間30円配とした。

## 17/6 期会社予想は 5.2%増収、4.0%営業増益予想と上期好調でも変更なく増額期待

17/6 期会社予想は売上高 880 億円 (5.2%増)、営業利益 63 億円 (4.0%増)、経常利益 64.5 億円 (5.7%増)、税引利益 46.2 億円 (6.1)、受注 930 億円 (14.6%増) 予想と、期初計画を変更していない。会社側ではプラント納入の時期があり、上期の数字はあくまでも納

期が集中したとの見解であるが、差引した下期業績は売上高 480.06 億円 (前年同期比 19%減)、営業利益 33.77 億円 (同 24.9%減)、受注 430.60 億円 (同 2.6%増)、受注



残 335.5 億円 (同 13.0%減) となる。現在、いつでも新鮮しぼりたて醤油ボトルなどの受注も好調で受注残も豊富に抱えており、セグメント利益率の推移も、安定したパッケージ部門の中で、メカトロの収益性改善、農業用の付加価値製品増加による収益性向上が続いている。また増配を発表する中で大きな不採算工事があるとは想定しにくく、17/6 期は増額修正での着地が期待される。なお、3Q の決算は 5/9 発表を予定している。

## 無菌充填に大きな技術優位性を持ち、今後海外展開が本格化

同社のボトリングシステムでの地位を揺るぎないものとしたのが、PET ボトル無菌充填システムであろう。同社は 1994 年に大日本印刷と、PET ボトルに無菌状態で液体の充填を高速に行なうシステムを共同開発、世界ではじめて FDA (米国食品医薬品局) より、ミルクコーヒーやお茶などの低酸性飲料を充填するシステムとして認可された。それまでは充填前の空のペットボトルを過酢酸溶液の噴射や過酸化水素溶液の噴霧など薬剤で殺菌し、その後飲料の高温殺菌が必要で、風味が損なわれる恐れがあった。これに対して同社システムは無菌状態を保ったチャンバー内で、試験管のような小さなプリフォームをふくらませながらペットボトルを成形し、高温・短時間で滅菌した内容物を急速に冷却して常温でボトルに詰めるシステム。高稼働率なほか、メンテナンス回数やコストを低減できるなども優位点となった。また従来は飲料水をペットボトルに入れた状態で約 90℃で加熱殺菌するため、耐熱性に優れた厚いペットボトルが必要だったが、高温殺菌システムに比べて容器の肉薄化でき、容器資材量を減らせることができた。容量 500ml PET で高温殺菌の半分以下の 16g、特にミネラルウォーターは 11~13g まで減らすことが可能で、資材コストとともに輸送コストなどで大きなメリットが生まれた。さらに同社は 2008 年にペットボトルをシス

テム内で表裏両面から同社の電子線で照射し除去する次世代容器滅菌の開発に成功、さらなる容器の減容化が可能となった。日本茶やミネラルウォーターなどの飲料水で広く使われる軽くて薄いペットボトルは同社の無菌充填システムで実現されたもので、現在、従来システム含め無菌充填装置の国内シェアは80%に及んでいる。

2015年、国内需要のPET生産本数は前年比1.13%増の205.3億本となっており、成長しているものの、成長率は低い状況にある。但しCO2削減につながる容器軽量化ニーズの

高まりが続いている。現在、PETボトル主要17品種で軽量化目標が定められ、



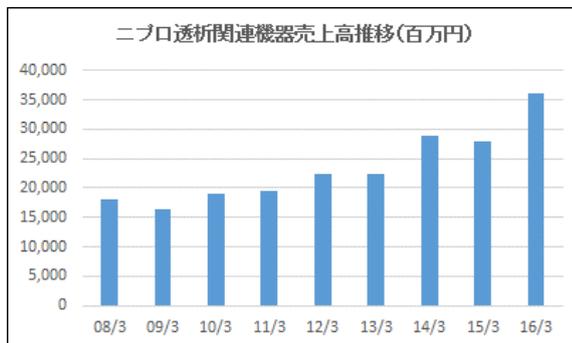
着実に軽量化が進展、今後も次世代無菌充填システムのニーズは高まろう。また最近ではワインボトルのPET化などもあり、国内需要は設備更新中心ながら、軽量化やPET多様化で緩やかな拡大を続けよう。

一方、今後の需要増は中国や東南アジアなどのアジア地区が中心となろう。アジアではお茶や腐敗しやすいミルク系飲料が好まれ、菌の管理が必要なため常温充填できる無菌充填システムへの関心が高まっている。従来、高温殺菌システムに比べ初期コストが高く採用率が低かったが、ここに来て常温充填できる点や低ランニングコストなどが評価され需要が急増、同社はサービス拠点を設けてメンテナンス対応も充実させている。また炭酸飲料と無炭酸飲料の兼用充填や、果肉やタピオカなどの固形物を入れた果肉入り飲料充填にも無菌充填する技術開発も進め、多様なニーズに対応する。このため無菌充填システムを中心に海外向けボトリングシステムはこれから本格的な拡大期を迎えることとなろう。



## 製薬設備技術のすそ野広がる

同社のボトリングシステムでのもう一つの核となるのが製薬設備分野の拡大である。同社の製薬設備分野・医療機器分野への参入は古く、1987年にニプロと医療機器に関するOEM供給契約を結び、人工透析装置の製造を行う（18/6期ニプロ向け売上高92.76億円）ことからスタート、その後1991年に米国エーカーズ社とバリデーションのコンサルタント契約を結んだことから本格拡大している。



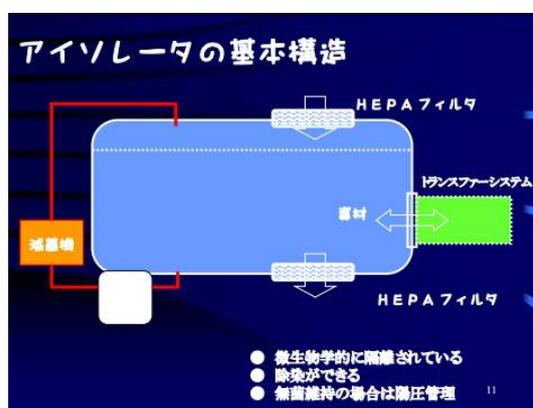
ここでバリデーションとは、医薬品や医療機器の製造工程や方法が、目的とするものを製造するのに最適かどうか（科学的根拠、妥当性があるかどうか）を検証する一連の業務を指す。厚生労働省のGMP（適正製造基準）省令では、「製造所の構造設備ならびに手順、工程その他の製造管理及び品質管理の方法が期待される結果を与えることを検証し、これを文章化すること」と定義されている。そして同社は日本で初めてバリデーション役務提供を行った会社であり、現在、同社のバリデーション役務として、生産計画と生産実績の情報を収集し、工程間制御や基準書、手順書等の基準書類の整備支援等まで行うソリューションを提供している。すでに数百件を越える実績があり、今後も医薬業界でのGMPがグローバル対応していく中で、その重要性がさらに増してくる見通しにあるだけでなく、その他業界向けにもすそ野を広げていける分野として注目される。

<p><b>fun-SOP<sup>®</sup> ファン・ソップ</b></p> <p>GMP対応 作業記録管理・運用システム</p> <p>作業手順の音声読み上げ機能を装備</p>	<p><b>トラック&amp;トレースシステム</b></p> <p>GMP対応 製品の追跡と所在確認が出来ます</p> <p>各国のシリアライゼーションに対する基本要件に対応</p>	<p><b>プロダクション管理システム</b></p> <p>複数の設備から稼働・生産情報を収集し、モニタ表示や帳票出力します</p> <p>お試し版が新登場 1セット設備数3台のシステムを発売開始</p>	<p><b>巡回点検記録システム</b></p> <p>点検記録と、その作業者の位置を記録します</p> <p>導入したその日から運用できる手軽さ</p>
--	--	---	---

同社はバリデーション役務提供に続き、翌1992年には日本に初めて医薬品の製造用途のアイソレータを紹介、販売を開始した。アイソレータは閉鎖環境内での作業装置を指し、当初は放射能汚染から人を防御する目的で原子力分野に使用されたのが始まり。これを医薬品分野で利用し始めたのがアメリカで、1983年に無菌試験のために導入され、その後、無菌試験での効果が高いことから、1985年にはバクスターがアメリカ、スペイン工場に医薬品製造用として利用、その後、ノバルティスやメルクなどにも採用が広がり、1990年ころから欧米では一般化してきた。定義的には「環境及び人員の直接介入から物理的に完全に隔離された無菌操作区域を有する装置であり、除染後にHEPAフィルターなどでろ過した空気を供給し、外部環境からの汚染の危険性を防ぎながら連続して使用できる装置」とされている。アイソレータシステムの最大の特徴は、クリーンブースでの無菌操作では常に人的汚染問題が常に付き纏い汚染管理が容易でなく膨大なコストもかかることに対して、無菌環

境を最小スペースに限り、無菌環境維持も容易なことである。

同社は1994年にフランスのアイソレーターメーカーであるラ・カレーヌ社と日本における総代理店契約を結び、1号機となる設備をレダリー（武田製薬とアメリカンサイアナミッド社の合弁企業）志木工場に納入した。また翌1995年には現ニプロファーマー伊勢工場にシステム販売に成功、現在までに数百件を超えるシステム販売を行っている。このほか、1995年には固形製剤包装（カプセル剤や錠剤包装）システムでドイツのPTPブリスター機メーカーのウールマンパックシステムス社とブリスター機の日本における総代理店契約を結び、同年、医療機器製造部門としてISO9001を取得、本格的な製薬設備システム事業に乗り出すこととなる。さらに1996年にはラ・カレーヌ社と無菌製剤向けバリアシステムのライセンス生産契約を結ぶなど、その後も海外有力企業との提携を進め、様々な装置を取り込んで事業拡大がなされてきた。



16/6期、同社のボトリングシステムの中で医薬・化粧品分野向け売上高は105.76億円に達する。今後の展開でも、グローバルな管理体制強化に伴うバリデーションニーズの高まり、アイソレータ分野も、「無菌保持」と「封じ込め（ハザード用）」に加え、昨今では、抗がん剤の注射剤分野の伸長により「無菌ハザードの両立」の納入も増えるなど、今後も堅調な需要が見込まれる。

### 総合的な技術力が生きる再生医療事業の本格拡大に期待高まる

製薬設備事業の技術を生かし、大きな飛躍を期待して本格参入したのが再生医療分野である。同社がこの分野に参入したのは2004年、ボトリング装置にも使われる無菌・滅菌技術が、再生医療では細胞培養において常温培養が必要で、少しでも菌が混じった状況下では細胞が変容する恐れがあるため、常温での無菌化技術が必須の技術という点にある。しかも、単に無菌とするだけでなく、培養に数週間～数カ月かかる再生医療では、装置を停止させて清掃することなく無菌状態を長期間維持する必要がある、この面でも同社の管理技術が生きることとなる。

もう一つ重要な要素だったのは、細胞培養における自動化である。従来の再生医療の細胞培養の現場では、熟練研究者が手作業で培養を行っており、ランニングコストが大きく56誰でも簡単に作る事ができないため、品質の安定性に欠ける問題が生じていた。これに対し同社は、ボトリングシステムにおいて他社に先駆けて双腕ロボットを導入したノウハウや、高速で選果・選別する農業設備での精密位置決め技術を生かし、アイソレータ内にロボット自動細胞培養システムを組み込むことに成功、トライアンドエラーを重ね、細胞培養の飛躍的な効率アップに成功した。さらに同社はメカトロニクス分野のボンディング技術、精密位置決め技術などを駆使し、様々な種類の細胞を自在に3次元配置する世界初の「バイオ3Dプリンタ」の開発にも成功、今後、細胞を用いた移植可能な立体組織、さらには将来的に細胞培養による臓器開発への期待も抱かせるものとなっている。

また2016年12月にはニコンと再生医療製品製造用自動監察機能付インキュベータも共同開発。これは培養環境下でiPS細胞などの各種細胞の観察画像を解析して未分化状態の

### 骨髄由来幹細胞製品の製造

対象細胞：●自己骨髄細胞液  
 培養容器：●血液バッグ  
 細胞操作：●細胞の分離・洗浄



自己骨髄液      細胞操作の様子

---

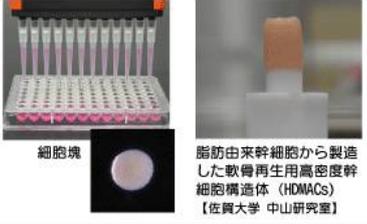
使用したシステム



細胞操作用アイソレータ      細胞培養アイソレータ CPI 【山口大学・宇部市MCC】      ロボット自動細胞培養システム CellPROi 【山口大学・宇部市MCC】

### 軟骨再生用高密度幹細胞構造体 (HDMACs) の製造

対象細胞：●脂肪由来幹細胞(接着系細胞)  
 培養容器：●150mmディッシュ  
 ●96ウェルプレート  
 細胞操作：●培地交換・継代  
 ●細胞観察    ●分注  
 ●移植幹細胞構造体製造



細胞塊      脂肪由来幹細胞から製造した軟骨再生用高密度幹細胞構造体 (HDMACs) 【佐賀大学 中山研究室】

---

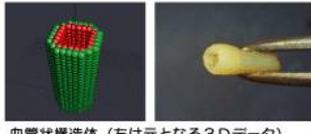
使用したシステム



ロボット自動細胞培養システム      ロボットによる細胞操作

### 立体構造体の製造

対象細胞：●脂肪由来幹細胞  
 ●繊維芽細胞  
 ●内皮細胞  
 ●平滑筋細胞  
 ●肝細胞 など  
 培養容器：●96ウェルプレート



血管状構造体 (左は元となる3Dデータ) 【佐賀大学 中山研究室】

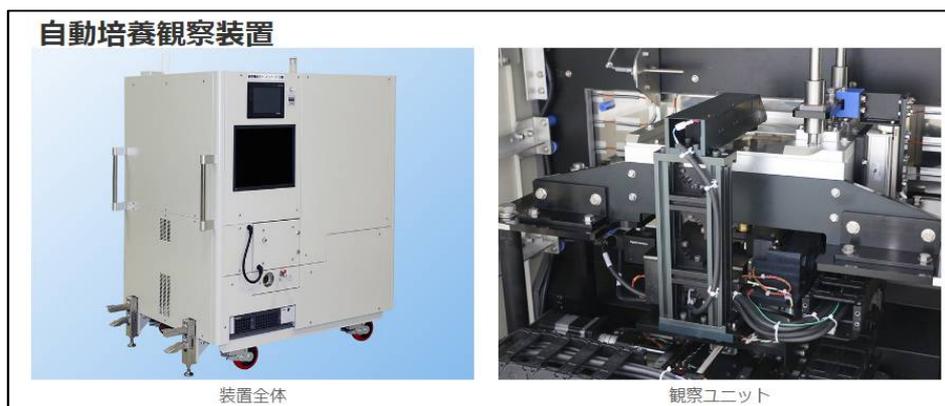
---

使用したシステム



バイオ3Dプリンター RegenoVA      バイオ3Dプリンターの内部

細胞数や増殖速度、細胞品質などを評価する自動観察機能を内蔵したインキュベータ庫内の温度や湿度、CO2 濃度等



を一定に保って細胞等を培養する。阪大幹細胞評価基盤技術研究組合集中研究所に設置し、実際の細胞培養実証実験を支援する装置として納入された。装置は細胞製造工程で使用される周辺装置と庫内の無菌環境を維持したまま着脱し細胞の受け渡し可能なインターフェースを採用、再生医療製品製造のさまざまな場面で使用が見込まれる。このように同社は様々な再生医療分野で産学官の共同開発に参画、その成果がいよいよ開花しつつある。

同社は 2011 年に医療機若宮工場を新設、2014 年 6 月には金沢テクノパークに日本初となる再生医療の専門工場を新設、バイオ 3D プリンタをはじめとする細胞培養装置の設計・組み立てを一貫生産できる体制を構築した。また 2016 年には RM システム森本工場に細胞培養加工センターを新設している。

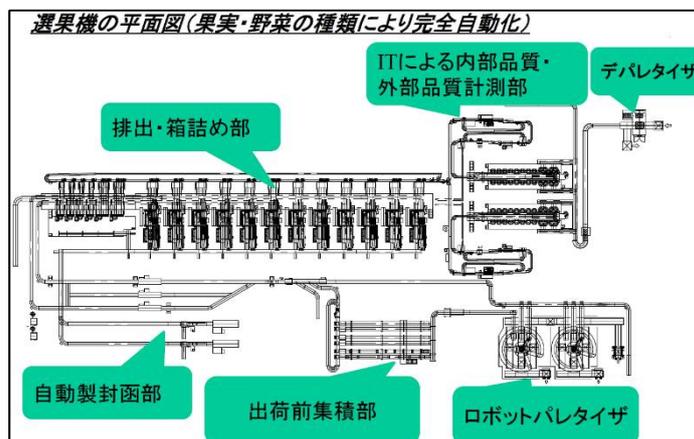
現状、大学や研究所向けの納入が大半ではある。しかし 2017 年 2 月には神戸市立医療センター中央市民病院、阪大大学院医学系研究科、京大 iPS 細胞研究所、理研が連携した、「滲出型加齢黄斑変性に対する他家 iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞懸濁液移植に関する臨床研究」について、厚生労働省の適合認定がなされた。そして 3/28 には理研の高橋政代プロジェクトリーダーのもと、加齢黄斑変性の 60 代男性に、京大の山中教授らが作った拒絶反応が起きにくい特殊な iPS 細胞から培養した目の網膜組織を移植した。今後、さらに患者 5 人を目標に同様の手術を行い、細胞のがん化や拒絶反応が起こらないかなどを慎重に確認する。成功すれば自家細胞の場合の 1/10 のコストとなるだけに、その成果の行方に期待が高まる。実際、今回の滲出型加齢黄斑変性に対して実用化となれば細胞自動培養装置ニーズが格段に高まるほか、これ以外での臨床も相次いで始まるとみられ、当面 2020 年には 50 億円規模を見込むが、その後、同社の再生医療関連ビジネス売上は飛躍的に拡大しよう。

### 農業用設備は 6 次化農業に向け国の支援などもあり合理化・高付加価値化で成長

同社はボトリングシステムの技術を生かし、農作物の出荷前に行われる選果・選別作業の自動化を図る農業設備システムも手掛けている。同事業への参入の経緯は、松山にある当時同業界 NO2 であった石井工業（株）が、後継者難から 2003 年に同社グループに加わり、これを買収したことに始まる。その後、業界 NO1 であったマキ製作所が粉飾決算で 2007

年 8 月に破たん、これを 2008 年同社が設立した静岡シブヤ精機が全事業の譲渡を受け、グループとして業界 60%シェアを握る形となった。柑橘類に強かった石井工業とリンゴやナシ、桃など、非柑橘系に強みを持っていたマキ製作所のシナジー効果が大きく、3 年前には両社を合併させ、シブヤ精工とし効率化を図った。

16/6 期農業用設備の売上は前年比 48.6%増の 108.33 億円と伸長している。これは安倍政権の 6 次化農業の推進により、農業生産の高度化、ブランド品づくりのために品質管理、トレーサビリティの推進など、同社の自動化システムへの追い風が吹いているため。この動きは今後も続く見通しから、当面 2 ケタ成長が見込める。



#### 18/6 期もボトリング、農業用設備の好調に加えメカトロシステムも伸長し最高益更新続く

18/6 期はボトリングシステムが国内の堅調な伸びに加え、海外向けの拡大が見込まれること、農業用設備が 6 次化農業支援の継続から引き続き 2 ケタの伸びが期待される。加えてメカトロニクス分野は人工透析器の堅調な伸びに加え、業界の老舗となるレーザ加工機がモーターコアなどの試作加工もできる差別化製品の投入、カイジョウの半導体後工程製造、検査装置の伸長、リチウムイオン電極材スラリー化装置などの拡大も見込まれ、2 ケタ増収が期待される。このため 18/6 期収益も連続最高益更新が見込まれる。

#### 株価は増額修正、再生医療関連の主力銘柄として機械セクター平均 PER19.3 倍の 3400 円

株価は 2 月に他家 iPS 細胞を使った臨床認可を受け、1/31 の安値 2246 円から上昇を続け、3/21 には 3280 円の高値を付けた。その後、公開来高値 2014 年の 3505 円に届かなかったこともあり、全体相場の下落もあり現在株価まで下落している。但し、17/6 期会社予想 EPS 円に対して PER は 15.36 倍と機械セクター平均 PER19.3 倍を下回っており、最高益更新予想銘柄として割安感がある。また実際には上方修正含みであり、当面 17/6 期 DO 予想 EPS182 円の 19.3 倍となる 2014 年高値 3505 円を目標としたい。また今後、再生医療の臨床結果で良好な結果が報告された場合には再生医療の成長力を評価し、17/6 期 DO 予想に対し iPS 関連銘柄では 30 倍以上に買われることを考慮し、中期目標を 5500 円としたい。

(million yen,yoy:%,yen/share)										
SALES	yoy	OP	yoy	RP	yoy	NI	yoy	EPS	Div.	
15/6 期	80,430	1.7%	4,870	-2.4%	5,082	-4.8%	8,286	155.5%	299.46	20.00
16/6期	83,617	4.0%	6,058	24.4%	6,104	20.1%	4,354	-47.5%	157.37	20.00
17/6 上期	39,940	15.3%	2,923	87.1%	3,298	107.0%	2,252	114.6%	81.42	15.00
17/6 下期会予	48,060	-1.9%	3,377	-24.9%	3,152	-30.1%	2,368	-28.4%	85.55	15.00
17/6 期会予	88,000	5.2%	6,300	4.0%	6,450	5.7%	4,620	6.1%	166.97	30.00
17/6 下期DO予	49,560	1.2%	3,927	-12.7%	3,702	-17.9%	2,798	-15.3%	101.09	15.00
17/6 期DO予	89,500	7.0%	6,850	13.1%	7,000	14.7%	5,050	16.0%	182.51	30.00
18/6 期DO予	97,000	8.4%	8,100	18.2%	8,300	18.6%	5,950	17.8%	215.04	35.00
19/6 期DO予	104,000	7.2%	9,100	12.3%	9,300	12.0%	6,700	12.6%	242.14	38.00

	11/6	12/6	13/6	14/6	15/6	16/6	17/6 会予	17/6 DO	18/6 DO	19/6 DO
売上高	58,593	68,176	73,305	79,093	80,430	83,617	88,000	89,500	97,000	104,000
売上原価	50,659	58,559	60,246	64,770	66,071	68,015		73,000	78,800	84,400
売上総利益	7,933	9,617	13,058	14,322	14,359	15,601		16,500	18,200	19,600
販管費	7,549	8,528	9,585	9,331	9,488	9,543		9,650	10,100	10,500
営業利益	384	1,088	3,473	4,991	4,870	6,058	6,300	6,850	8,100	9,100
経常利益	338	1,203	3,820	5,336	5,082	6,104	6,450	7,000	8,300	9,300
親株主帰属純利益	-84	308	1,739	3,243	8,286	4,354	4,620	5,050	5,950	6,700

	11/6	12/6	13/6	14/6	15/6	16/6	17/6 会予	17/6 DO	18/6 DO	19/6 DO
セグメント売上										
パッケージP	39,777	43,797	44,649	50,877	50,728	48,514	50,300	50,800	54,200	58,100
(酒類)	2,616	2,265	5,437	2,402	3,430	3,905	3,000	3,000	3,000	3,000
(食品)	25,869	27,226	29,314	38,390	33,326	31,363	33,500	34,000	36,000	37,400
(薬品・化粧品)	8,686	12,011	8,239	8,405	11,506	10,576	10,800	10,800	11,200	11,700
(その他)	2,605	2,293	1,657	1,679	2,465	2,668	3,000	3,000	4,000	6,000
メトロ	10,621	13,236	16,216	19,146	22,189	23,611	25,000	25,600	28,400	30,400
農業用	7,624	10,860	11,866	8,454	7,289	10,833	12,200	12,600	13,900	14,900
その他	569	282	573	615	222	657	500	500	500	600
合計	58,593	68,176	73,305	79,093	80,430	83,617	88,000	89,500	97,000	104,000

	11/6	12/6	13/6	14/6	15/6	16/6	17/6 会予	17/6 DO	18/6 DO	19/6 DO
セグメント 営利										
パッケージP	3,295	3,803	5,216	7,454	7,019	6,829		6,850	7,600	8,350
メトロ	-1,002	-1,350	-1,927	-1,097	-637	789		1,180	1,500	1,700
農業用	63	604	2,152	471	448	546		1,100	1,200	1,300
その他	-203	-149	-19	-53	-42	11		20	20	50
合計	2,152	2,907	5,422	6,773	6,787	8,155		8,950	10,320	11,400
調整額	-1,768	-1,819	-1,949	-1,782	-1,916	-2,097		-2,100	-2,220	-2,300
調整後営業利益	384	1,088	3,473	4,991	4,870	6,058	6,300	6,850	8,100	9,100

	11/6	12/6	13/6	14/6	15/6	16/6	17/6 会予	17/6 DO	18/6 DO	19/6 DO
セグメント 受注										
パッケージP	44,824	46,090	51,172	47,238	47,647	50,859		54,000	55,600	59,000
(酒類)	2,413	2,938	5,329	2,209	4,033	3,486		3,000	3,000	3,100
(食品)	26,592	30,592	36,520	34,855	30,646	29,390		36,000	37,000	37,600
(薬品・化粧品)	12,954	10,522	7,402	8,247	10,554	15,019		11,500	11,400	11,800
(その他)	2,864	2,036	1,919	1,925	2,413	2,963		3,500	4,200	6,500
メトロ	10,220	14,079	15,735	24,615	25,711	18,860		26,700	29,000	30,500
農業用	10,556	10,353	11,290	7,089	8,677	10,967		13,500	14,200	14,900
その他	534	203	890	327	514	436		500	500	600
合計	66,134	70,727	79,088	79,270	82,611	81,124	93,000	94,700	99,300	105,000

半期	13/6Q2	13/6Q4	14/3Q2	14/6Q4	15/6Q2	15/6Q4	16/6Q2	16/6Q4	17/6Q2	17/6Q4 DO
売上高	32,714	40,591	32,005	47,088	36,538	43,892	34,628	48,989	39,940	49,560
売上原価	27,314	32,932	26,074	38,696	30,557	35,514	28,386	39,629	32,277	40,723
売上総利益	5,400	7,658	5,930	8,392	5,981	8,378	6,242	9,359	7,662	8,838
販管費	4,702	4,883	4,580	4,751	4,806	4,682	4,679	4,864	4,739	4,911
営業利益	697	2,776	1,350	3,641	1,174	3,696	1,562	4,496	2,923	3,927
経常利益	724	3,096	1,707	3,629	1,366	3,716	1,593	4,511	3,298	3,702
親会社株主帰属純利益	152	1,587	974	2,269	876	7,410	1,049	3,305	2,252	2,798

セグメント売上半期	13/6Q2	13/6Q4	14/3Q2	14/6Q4	15/6Q2	15/6Q4	16/6Q2	16/6Q4	17/6Q2	17/6Q4D O
パッケージP	18,667	25,982	20,494	30,383	22,783	27,945	19,547	28,967	21,708	29,092
(酒類)	1,472	3,965	1,221	1,181	1,226	2,204	1,864	2,041	1,611	1,389
(食品)	12,390	16,924	15,802	22,588	16,944	16,382	11,987	19,376	13,705	20,295
(薬品・化粧品)	3,857	4,382	2,779	5,626	3,458	8,048	4,355	6,221	4,976	5,824
(その他)	945	712	691	988	1,154	1,311	1,339	1,329	1,414	1,586
メカトロ	7,089	9,127	7,378	11,768	10,150	12,039	9,957	13,654	11,565	14,035
農業用	6,855	5,011	3,993	4,461	3,444	3,845	4,983	5,850	6,475	6,125
その他	102	471	138	477	160	62	139	518	190	310
合計	32,714	40,591	32,005	47,088	36,538	43,892	34,628	48,989	39,940	49,560

セグメント営利	13/6Q2	13/6Q4	14/3Q2	14/6Q4	15/6Q2	15/6Q4	16/6Q2	16/6Q4	17/6Q2	17/6Q4D O
パッケージP	1,270	3,946	2,944	4,510	2,517	4,502	2,191	4,638	2,675	3,975
メカトロ	-1,210	-717	-885	-212	-477	-160	61	728	457	723
農業用	1,634	518	190	281	128	320	418	128	867	233
その他	-62	43	-24	-29	-18	-24	-22	33	7	13
合計	1,631	3,791	2,224	4,549	2,149	4,638	2,648	5,507	4,007	4,943
調整額	-934	-1,015	-874	-908	-974	-942	-1,086	-1,011	-1,084	-1,016
調整後営業利益	697	2,776	1,350	3,641	1,174	3,696	1,562	4,496	2,923	3,927

